

お元気ですか



旭川市議会議員 笠木かおる通信

旭川市豊岡5条9丁目1番2号
TEL.FAX.0166-32-4863
kasagi@potato.hokkai.net

春。躍動の季節。皆様お元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

「かおる通信」31号をお届けします。2期目の任期も早いもので丸2年が過ぎ、折り返し地点を通過しました。後期も、ひたむきに、一生懸命に走り続けます。



スマトラ沖地震の援助活動にたちました



昨年12月26日に発生したスマトラ沖地震でお亡くなりになられた方は15万人、行方不明者は18万人に達し、いまなお余震が続いています。家族からはくれた子ども達を、虐待や人身売買から保護することもいまだ緊急の課題となっています。



このほど買物公園にたち、「2万5千円で家族5人が安全に暮らせる仮設住宅を贈ることができます」と訴えました。小さな手で募金箱にお金を入れる子ども達の表情に感動しました。



千代田地区後援会役員会が開かれました



2月16日、旭川パークゴルフクラブ（ユトリロ）で千代田地区後援会（羽田文次郎会長）の役員懇親会を開いていただきました。

前回の選挙後、千代田地区後援会としては初めての集まりで、日頃お世話になっている地区役員の皆様と一同にお会いすることができ、大変ありがたかったです。



東旭川地区後援会役員会が開かれました

2月19日、東旭川地区後援会（中川希一会長）の地区役員懇親会を、徳厳寺を会場に開いていただきました。

生まれ育った地でもあり、お集まりいただいた役員さんには古くからご親切をいただいています。

感謝してこれからもがんばります。



開運招福 今年も豆打ちの儀に参加しました



旭川神社の境内は幼少期の遊びの場でもあり、特別な思い出があります。

2月3日、今年もカミシモを纏い「鬼は外、福は内」と豆打ちのご奉仕をさせていただきました。

豆打ちは、遥か600年前の室町の時代から行われていたそうで、当時は何を祈願したのか興味深いものがあります。私は人々の健康と家内安全をお祈りにしています。



（近況報告）長女・亜以は子育てに奮闘中。「婿殿」の河野圭太君は朝7時30分に家を出て、帰りは毎日9時すぎです。民間の厳しさが垣間見えます。次女・香菜はオドリに夢中。孫・太志君は相変わらず家の中心人物で、ヨチヨチ歩きの中。

旭山スキー場、「雪の村」として存続



廃止が取り沙汰されていた旭山スキー場が今シーズン、冬の遊園地「雪の村」として営業されました。「廃止反対」で昨年、努力させていただいただけに嬉しいものがあります。

ロープトウを使用したスキーは勿論、「雪を滑る。雪を楽しむ」遊具が盛り沢山用意され、はじめてのシーズンとしては予想以上の人気でした。

動物園と連動して、さらに市民に親しまれるエリアとして運営されるよう頑張っていきます。

地神祭で想うこと



農村部では毎年、3月に地神祭が行われています。古くは、祝詞をあげ、おごそかに行われていたようですが、最近は、懇親的な意味合いが強くなったようです。

昨年は2月の大雪、9月の風台風と農業被害は甚大なものがありました。その愚痴を語らず、楽しく過ごす地神祭での農民の姿に学ぶものが多くあります。（写真は東旭川米原地区の地神祭）

共生園の理事会・評議員会が開かれました



3月31日、社会福祉法人旭川共生会（高丸修理事長）の理事会・評議員会が開かれ、私は常務理事として17年度の事業計画や予算を提案させていただきました。

共生園がオープンして2年4ヶ月。お陰様で事業も順調にすすみ、健全な経営と運営にむかっています。

今年度は介護保険制度の改正が危惧されますが、利用者の皆さんをはじめ地域の皆様に愛される施設づくりに、引き続き励んでいきます。

第1回定例市議会が終わりました

平成17年度予算を審議する第1回定例市議会は2月21日に開会され、3月24日までの32日間の会期で開かれました。

17年度の旭川市一般会計予算は1,510億円、各特別会計は1,360億円で、合計2,870億円の17年度旭川市予算が決まりました。

以下、本会議大綱質疑や予算審査特別委員会における私の質問要旨について報告します。



これ以上の借金は増やしません

(笠木) 将来世代に借金を残さないために、17年度を契機にプライマリーバランスの黒字を維持していけるか。

(答弁) 今後とも黒字を継続できると考えている。

(笠木) 市債(借金)残高が減少したが、この傾向は今後とも続くか。

(答弁) 厳しい財政状況が続くが、この先の市債残高は軽減していくものと推計している。

【解説】借金の返済額から新たな借入額を差し引いたものがプライマリーバランスで、これを黒字にすることが持続可能な街づくりに不可欠です。市の17年度公債費(借金返済額)は188億円に対し新たな借金は141億円で、延々と続いた赤字予算が本年度、47億円の黒字予算となりました。現役世代が後世に、これ以上の借金を残さないとの視点が大切で、市に強く求めました。

現在、市の市債(借金)残高は1,916億円で17年度、わずか1億円ではありますが、借金残高が減少するという予算となりました。前年に比べ借金が少なくなることは、旭川市はじめて以来のことです。17年度予算で最も特徴的なことです。



行政のスリム化は「転ばぬ先の杖」

(笠木) 職員の基本給削減は経済に及ぼす影響も甚大で、その前に行政のスリム化が必要だ。

(答弁) 18年度までに職員を250人削減し、外注や民間委託の拡大に努める。

【解説】行政のスリム化は避けて通れない課題となっています。「転ばぬ先の杖」の視点で、市は職員数の適正化やアウトソーシング(外注や民間委託)を図っていくこととなります。

民間需要の喚起で旭川経済に刺激を

(笠木) 17年度の中小零細企業への経済刺激策はなにか。

(答弁) 公共工事における地元優先発注や分割発注に引き続き努力するとともに、住宅リフォーム資金の利子補給や高齢化住宅改修の補助金支援などで民間需要を喚起する。

【解説】17年度予算での臨時費(政策的経費)は600億円で前年に比べ100億円の減。投資的な経費は175億円で菅原市政10年で過去最低です。

このことから、市が直接、地元企業へ発注する量は相当落ち込むことが明らかです。

今年度は市街化区域の拡大が行われることから、建築・土木関連の需要に期待がもてますが、利子補給や住宅改修補助制度などを「呼び水」にした民間需要の拡大政策を強く求めました。



観光都市づくり

(笠木) 旭川空港の国際線ターミナル整備が急がれるが。

(答弁) 旭川商工会議所と旭川空港ビル株の3者で協議がすすんでおり、一定の方針をもち考え方を整理する。

(笠木) 7月にオープンする科学館の運営は、観光資源と位置づけ、「おもてなし」の姿勢が大切だが。

(答弁) 180名のボランティアによる案内体制などを整える。また、木曜日の開館時間を夜8時にするなど、運営の見直しを行う。

【解説】17年度予算は、旭山動物園と7月に開設される新科学館、国際チャーター便を柱に、優良良織工芸館や恵まれた自然と風土、食べ物などを滞在型観光の資源や素材として、旭川を活気づけていく予算編成となっています。



総合防災センターの設計に着手

(笠木) 平成20年のオープンをめざす旭川市総合防災センターの施設概要を示されたい。

(答弁) 中核施設には、防災拠点管理機能に加え、消防指令センター、消防出張所などを整備する。支援物資集配センターは3,000㎡の施設で平常時はスポーツ施設として市民に開放する。



【解説】総合防災センターの整備が決まり17年度、基本設計に着手、平成20年の開設をめざします。場所は東光スポーツ公園の忠別川沿いで、特に、支援物資集配センターの平常時の利用が期待されます。

旭川駅のデザインは市民との協働で

(笠木) 平成22年開業の旭川駅舎および駅前広場の設計はいつ、どのようにして行うのか。

(答弁) 市民の意見や懇談会での検討をすすめ、景観やデザインにも配慮してすすめていきたい。

【解説】旭川駅周辺の鉄道高架事業は17年度、全体の50%が整備されます。新・旭川駅は平成22年オープン予定で、現在の位置から70m後ろに下がります。旭川の顔で玄関口であるだけに、駅舎のデザインはもちろん、駅前広場や周辺の設計も透明性をもって市民参加で行うべきと主張しています。



このほか、介護保険制度の改正に伴う、利用・サービス内容などについて正しましたが紙面の関係で省略させていただきます。

建設公営企業常任委に検閲検査権が付与されました

私が委員長を務める建設公営企業常任委員会に、今議会で地方自治法第98条に基づく検閲検査権が付与されました。

これは、市道神楽3条通線の拡幅工事に伴う移転補償事業に関するもので、適正に執行されたかを調査するものです。

議会内には、補償を受けた地権者と菅原市長の関係を正しながら、無駄な道路拡幅と高額な移転補償を行ったとの指摘も続いており、市政の信頼を創るためにも、しっかりと調査をしたいと思います。

100条委員会に続き、旭川市議会ははじめて以来の98条付与の常任委ですが、いずれにしても、いつまでも混乱を続けることに一刻も早くピリオドを打ちたいものです。